【取組概要】

団体名	吉賀高校版　サクラマスプロジェクト
活動の内容（概要）	サクラマスプロジェクトは、吉賀町の教育の長期的な取り組みであり、柱でもある。学校・家庭・地域が一体となり、吉賀町での豊かな学びや体験、多様な人との交流を充実させ、いつの日か吉賀町を支える人材（財）を育てるという、吉賀町の保・小・中・高すべての子どもを対象にしたキャリア教育プログラムであり、吉賀高校のスクールミッションと重なる取り組みである。

受賞理由

〇高校魅力化×キャリア教育の象徴的な事例

〇サクラマスプロジェクトによる関係人口の創出は地方の高校改革にとって参考になるもの

〇高校存続の危機から存続と魅力化を図るために平成２５年より継続的に挑戦を続けており、町内８校の小中学校との連携や町役場と町教育委員会が一緒になった「サクラマスプロジェクト」の進化が伺える。PJ のネーミングにも思いが込められているが、各公民館単位で「地域会議」を行いながら実践的な取組が積みあがってきていることは評価できる。

〇「少人数指導によるきめ細かな学びを提供するとともに、地域の保・小・中学校や関係団体と連携した課題解決型学習等を通して、地域や社会の未来を支えることができる人材を育成する」というスクール・ミッションに即した学校・家庭・地域が三位一体となった取組である。応援したい。

〇条例により設置した協議会だけに、地域会議開催や月１回のプロジェクト会議など、地域の一体感や教育プログラムの質の高さが感じられ、地に足の着いた展開となっている。アドミッションポリシーとのリンクも、学校側の取り組みの意欲が伝わってくる。小中校に加えて首都圏大学との連携という点でも交流人口増に寄与しており、他地域の模範となりうる。

連携・協働している機関や団体，組織

【教育関係者（学校、教育委員会等）】

島根県立吉賀高等学校・吉賀町教育委員会（町内中学校３校・小学校５校）

【行政（首長部局等）や地域・社会（ＮＰＯ法人やＰＴＡ団体等）、産業界（経済団体や企業等）】

吉賀町役場・町内公民館（５地区）・町内保育所(4 所）等

活動開始の経緯

サクラマスプロジェクトは、降海型のサクラマスのように子どもたちがいつの日か吉賀町を支える人材に成長してほしいという願いから始まった。町の将来を担う人材育成のため、地域の子どもは地域で育てるという理念のもと、町役場と町教育委員会そして県立の高校が加わり、保育園から高校までを包括するキャリア教育プログラムを立ち上げるに至った。高校に関しては、平成１８年に学級数が２から１に減り、町で唯一の高校が存続の危機であった。地域と一体になり吉賀高校の存続と教育の魅力化を図り、平成２５年にサクラマスドリームプロジェクトという名称で高校版がスタートした。

「協力性」についての具体的な取組，工夫している点など

平成２５年に町役場と町教育委員会が一緒になり「サクラマスプロジェクト」を発足させ、高校版もこの年に始まった。平成２７年３月に制定された吉賀町の「吉賀町サクラマスプロジェクト推進協

議会設置条例」により、推進協議会が発足した。その役割は、サクラマスプロジェクトに係る情報の収集及び啓発、推進に係る研修、プロジェクトの計画・評価・検証、各地区サクラマスプロジェクト地域会議の支援、その他目的達成のために必要な事項、と定められた。また、町長が委嘱する協議会の構成員は、地域会議代表・公民館代表・社会教育委員代表・学校関係代表・保育所関係代表・PTA代表・地域団体代表・産業関係代表・児童福祉代表・その他町長が必要と認めた者、と多様である。

各地域では、各公民館単位ごとに、「地域会議」を行い、学校や各団体で行われている子どもの育ちにかかわる活動の情報交換や連絡調整、地区の取り組みについての協議などを行っている。学校やPTA、地域団体などさまざまな方の協力を得ながら、推進している。町役場・町教育委員会と高校の連絡調整のために「吉賀高校プロジェクト会議」が月１回開催されており、より実務的な議論がなされている。

また、平成１３年度から町内中学校と吉賀高校は連携型中高一貫教育校として県の指定を受けており、中高合同職員会議を年２回開催したり、中高の授業交流や部活動交流などが行われている。

「継続性」についての具体的な取組，工夫している点など

サクラマスプロジェクトでは、「育てたい子ども像」を共有し、吉賀高校のアドミッションポリシーともリンクさせている。本プロジェクト第２期の「育てたい子ども像」は

⑴　地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる子ども
⑵　地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う子ども
⑶　地域の現状を知り、ふるさとの未来に向けて行動できる子ども
⑷　地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける子ども

と設定されている。

中高合同職員会議では、上記４つの「育てたい子ども像」のうち、特に重点的に推進する項目を絞って取り組み、具体的な評価指標を設定して取り組み成果を分析している。

また、高校魅力化評価システムを活用し、社会性や探究性または協働性に関わる自己認識や行動について生徒や地域の大人の方にアンケート調査を実施している。具体的には「地域の人や課題にじかに触れる機会があるか」や「自分とは異なる意見や価値を尊重することができたか」、「立場や役割を超えて協働する機会があるか」などの質問項目についての回答結果やデータの変化を学校運営協議会等で情報共有している。

「実践性」についての具体的な取組，工夫している点など

吉賀高校では「アントレプレナーシップ教育」を核とした教育を展開し、地域をフィールドにした探究的な学びを推進している。地域社会の特長や課題を知り、自己と社会の接点を探るため、あるいは生徒の考案したプロジェクトを実践するために、地域の様々な主体との協働が欠かせない。公民館や保育所、社会福祉協議会、社会福祉法人よしかの里福祉会、その他町内企業や個人事業主と連携しながら高校生の学びを深めている。

吉賀町内の各中学校も、このサクラマスプロジェクトの一環として、それぞれ独自のキャリア教育やふるさと教育に力を入れている。例えば、吉賀中学校の「結（ゆい）プロジェクト」、六日市中学校の「チャレンジアワー」、柿木中学校の「わが郷土柿木を探ろう」。こうした活動で身につけた力、知識、感性、人脈などは、キャリア・パスポートにも蓄積され、そのまま吉賀高校の「アントレプレナーシップ教育」に生かされ、個々のキャリア形成へとつながっている。

また、高校３年生が町内全小学校に出かけ、自らのキャリアを語り、小学５・６年生と対話する「サクラマス・とーく！」を毎年実施している。小学生の良きロールモデルとなり、次世代へとバトンをつなぐ学びの循環を創り出している。

「発展性」についての具体的な取組，工夫している点など

毎年２月に、吉賀高校の「アントレプレナーシップ教育成果発表会」を地域に公開する形で開催し、町内中学生や地域内外の大人も参加する。複数の大学教授を講師に招き、町民の前でこの取り組みの価値づけをしていただいている。さらにこの発表会翌日には町の「サクラマスフェス（旧サクラマスプロジェクトフォーラム）」を開催し、地域ごとの取り組みや学校内外の子供たちの取り組みを発表したり、共有したりする会を開催して、町ぐるみの教育・人材育成の機運醸成を図っている。
また、平成２９年度から青山学院大学・法政大学、令和５年度からは桜美林大学も加わり、高大連携事業を実施しているが、これも町との協働により継続可能となっている。夏には大学生約２０名が数日間、吉賀町に来て中高生や町民と交流する。高校生とはアントレの授業の一環で、一日かけて町内フィールドワークに一緒に出かけ、秋に東京研修で大学生と再会し、東京でも一緒にフィールドワークを行う。大学生との交流を通して、高校生は特に「広い視野」「協働する力」を伸ばせたと実感する。大学が近辺に存在しない地域に住む高校生が大学生という存在を身近に感じる貴重な機会であり、様々な刺激を受ける。また、大学生が普段気づかない吉賀町の良さを再認識させてくれ、高校生の地元愛醸成や地域貢献意欲、さらには進路意識向上にもつながっている。大学生交流も、本プロジェクトのキャリア教育の一環として大きな役割を果たしている。

学校現場の評価・感想・コメント

町が掲げる「サクラマスプロジェクト」を柱とした、地域住民と一体となった探究的な学びやキャリア教育は、関係する各校児童・生徒の発達段階に応じ、それぞれが立地する地域の特性を生かしながら展開され、健全なキャリア発達の支援に繋がっていると評価する。特に高校段階においては、三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティングが提供する「高校魅力化アンケート」において、「社会性にかかわる学習活動」に関し、「地域や日本・世界の課題の解決方法について考える」ことに対する生徒の肯定的回答割合が、県平均および全国平均値に比べ、20～30 ポイント高い数値となっており、その成果をうかがい知ることができる。「アントレプレナーシップ教育成果発表会」等において、生徒は自身の取り組み内容や結果のみならず、活動を通じて得られた「自身の考えの変容」や「実感する自身の資質・能力の成長」について、自ら言語化して他者に伝えることができており、個々のキャリアが確実に発達していることが確認できる。

また、高校生の探究的な学習・活動に対し、さらに実践的な機会の提供を提案する声が地域住民からも寄せられ、関係事業の継続性のみならず、学校のさらなる魅力化や地域創生にも期待できる。

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

「サクラマスプロジェクト」では、高校生世代において「地域課題について考え、ジュニアリーダーとして実践する」ことを期待している。アントレ学習あるいは各地域で行われる行事への参画など、教育課程の内外を問わず地域の様々なフィールドで高校生の活躍が見られている現状は、まさにこの期待する姿を体現しているといえる。高校生が地域の課題を自己の課題として捉え、その解

決に積極的に向かう姿は、小中学生にとってのよきロールモデルであり憧れの姿となっている。「サクラマス・とーく！」で小学生と高校生との対話を通して互いの生き方や価値観に触れたり、高校生が探究の過程の中で企画したイベントへ小中学生が参加したりするなど、その交流の機会は様々創り出されている。また、それのみならず、高校生と関わり見守る地域住民にとっても地域への新たな気づきを促し、主体的に地域課題へ関わろうとする意欲の向上につながっている。令和５年度の「サクラマスフェス（旧サクラマスプロジェクトフォーラム）」では、各地域の事例発表において半数以上の地域で高校生が発表者の１人として登壇しており、高校生の学校内外での学びやつながりが魅力的な地域づくりに活かされていることがわかった。

今後も、サクラマスプロジェクトでは高校生をはじめとする多様な世代・立場が連携・協働することによる「人づくり」「つながりづくり」を進めていきたい。